

第三者評価委員会 評価報告

(2018年5月26日報告)
委嘱者 学校法人 裳美学園

1. 本園の教育目標に対して

- 個々に対応した総合的で系統的な教育を目指し、将来、社会に貢献でき、且つ生きがいを見出せる人の育成に努める。
- ・年齢に応じた基本的生活習慣を身につける。
 - ・音感教育及び感性を育て、心を表現できるようにする
 - ・社会性を身に付けさせ、心身の発育を目指す。

【 成果と課題 】

評価項目に沿って自己点検・自己評価をすることによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育の質の向上及び施設の改善に、主体的に取り組んでいくことを重点目標としていることに一定の評価として備すると考える。

2. 本園での評価項目の達成及び取り組み状況に対して

I. 教育課程および指導について

年間の指導計画や週案など、幼児の成長の実態に即し、望ましい成長の見通しをもって、適切に作成され、また生かされているか。

【 成果と課題 】

職員間での話し合いの中、幼児の成長、現在の子どもたちの現状に適した保育が行えるよう努めていることが伺える。教育課程については、昨年までの内容を、その都度見直し、変更すべき点を改善しながら作成している状況が確認できた。実践の結果についても、職員同士で意見を交換し、反省点を次に生かせるように努めている様子が見受けられた。

II. 安全管理について

事故等の緊急事態発生時の対応の状況や、教職員・幼児の対応能力の向上を図るための取り組みはなされているか。

【 成果と課題 】

災害に対しては、年複数回の防災訓練と年1回の不審者対応訓練を実施し、職員・幼児共に、いざという時に落ち着いて対処・避難できるよう、緊張感を持って取り組んでいた様子が確認できた。防災のための用具の使用や避難経路の周知、避難するタイミングや避難時に守るべきことなども園児一人ひとりの身に付くようにきめ細かく指導をしていた。

III. 特別支援教育について

個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成の状況はどうか。また、それらの計画は、園全体での支援・取組に活かされているか。

【 成果と課題 】

該当する子に対しては、保護者との連絡を密にし、その相談にきめ細かく応じて、保護者との連携を重視し、成長を促してきている。また、教師から見て、気になる子に関しては、園全体でどのように関わらうか等を話し合っており、全職員で声を掛けあい、定期的な職員間の報告の他に、各職員が関わった時の様子を持ち寄り情報を共有するなど、皆で見守っていく姿勢が見られた。

IV. 資質向上の取組について

教職員が、園の教育目標を理解して、それぞれに目標を立て、自らの指導やサービスを振り返ることにより、資質の向上を図ってきたか。

【 成果と課題 】

年度初めに教職員ひとり一人が立てた一年間の目標をふまえ、毎日の教育活動や服務状況を反省したり見直したり、また、教職員同士が助言し合ったりして、園全体として、教育内容の向上を図ろうと努めている様子が見受けられた。

経験年数の違いを超え、各教職員間でカンファレンス活動を通して、それぞれの経験や意見を伝え合い、活かし合いながら、自らの新しい課題を見つけ、資質の向上に向けて努力しようとする態度が伺える。

V. 保護者・地域住民との連携に対して

家庭や地域に開かれた幼稚園づくりを積極的に推進をはかっているか。

【 成果と課題 】

幼稚園便り、学年便り、ホームページ、報道機関等を通じて、子ども達の園生活の様子や情報を伝えているようである。

保護者や地域の人材、自然、施設などの資源を活用し、豊かな体験が得られるように努めていることが見られる。

未就園児親子に対し、幼稚園を訪問させる機会を設け、内容の充実を図りながら子育て支援を推進している様子が認められる。

3. 前途に向けた取り組みへの方向性に対して

- ①幼児が自発的に遊びを考え出し、好奇心や探求心をもって遊びを繰り広げていけるようになるための教師の援助や環境構成の在り方について更に研鑽を積まれたし。
- ②生活全般に渡り、園児がそれぞれ自己発揮するための環境づくりをより工夫し、一層の望ましい前向きな姿勢を培うようすすめていくとともに、様々な場面での「聞く」「話す」「伝え合う」等の実体験の充実が求められたし。
- ③一人一人の伸びや発達の課題を以後も明瞭にし、職員間の共通理解のもと保護者や関係機関との連携を今後も十分に図っていかれたし。
- ④今も保護者との相互理解の中で、危機管理意識の向上に邁進していかれたし。